た 岩の山脈を吾が宿舎の青垣とを音が逍遥の小径となす。 の青垣となし

深遠き蒼穹あまりに吾が寮友よ草原に出る。 かりまる 原めの散林な 静じさ寂まれ 家を破る蛮声に、吹雪鎮むる高吟に青春の意気託しなん はよしその身は平々にはならんとも、吾等が野望尽くるを知らず。 きぎ 音のまりに青く、輝く雪原あまりに白し。 できず のでみっした。 輝く雪原あまりに白し。 ないまない。 本ではない。 本では、 できない。 ないのであっした。 できない。 できない。 できない。 できない。 ないのであった。 ないのであった。 ないのであった。 かいでんかな。

合っ 結ず

Ħυ

生。

消え行くや先人の遺声 がまたした。 はれる熟睡をあとに はまだ長鳴かずします。 ないずこ青き野望は ないずこ青き野望は ないずこ青きのでみてげる。 はまだ長鳴かずし が、はまだ長鳴かずして 鶏はまだ長鳴かずして 吉ぇ ば て

洒け親と

酔ょは

友も

えど

来き五. 地さて

}

i E

 Δ

は

うとも ħ

身みに

の憂愁よぎりぬ

分けば

若が吹 天ま星ほ蝦ぇ ※対応して表で 。 さ き だださ 人ど四 ける Ĺ Ĵ 今こ とは なさん の の そ 行[®]を 行[©]を 方[®]を だって ち[®]想も そ 風ぜの をつぶて え

を

広で君素去き手で島ま ご 聞きり を 松ま れ く 行ゆ振ふの

る の 巨^か夢ゅ る

影げ

野 を

忘すス この ħ 燗ゥ得ぇ 悵ぁじ 誰だ果はに けて流が思いれれば なながれば かたき野末が水めて 7 語か き 狂くい 高っ旅ぶ乱る痴い唱た らん は 路じ

吉川 須藤 正文君 洋 君 作 作 Ж 歌